

医療安全ニュース 13期/10号

心理的安全性と医療安全について

心理的安全性テスト

1. チームの中でミスをする時、しばしば非難される。
 2. チームのメンバー間で、課題や難しい問題を指摘しあえる。
 3. チームのメンバーから、異なる意見を拒絶されることがある。
 4. チームにおいてリスクのある行動をしても安全だと感じる。
 5. チームの他のメンバーに助けを求めることは難しい。
 6. チームメンバーは、自分の仕事を意図的に否定するようなことはない。
 7. チームメンバーと仕事をするとき、自分の技術と才能が評価され、活かされていると感じる。
1. 3. 5. が No ならば 1点
2. 4. 6. 7. が Yes ならば 1点

参考・引用

- 1) Google.Re:Work「効果的なチームとは何か」を知る
<https://rework.withgoogle.com/jp/guides/understanding-team-effectiveness/steps/introduction/>
- 2) 日本医療安全学会/医療の質・安全学会.医療安全用語集.第1版(2023/5/9 発行)
Edmondson AC(著). 野津智子(訳). 恐れのない組織. 東京: 英知出版 (2021).
Edmondson A. Psychological Safety and Learning Behavior in Work Teams. Administrative Science Quarterly (1999) 44:350-383.
- 3) 心理的安全性と医療安全.レジリエントメディカル HP.
<https://resilient-medical.com/medical-safety/psychological-safety.>(2023/5/22 最終確認).
- 4) 辰巳 陽一.近畿大学病院での心理的安全性の臨床現場への導入の試み,医療の質・安全学会誌 Vol.15 No.4.p378-382.(2020).
- 5) 石井遼介.心理的安全性のつくりかた, 日本能率協会マネジメントセンター.(2020/9/1).

● プロジェクトアリストテレス¹⁾

1. Google 社(ピープルアナリティクス チーム)が 2012 年から取り組んだ労働改革プロジェクトです。
2. 「効果的なチームの条件とは何か」の問いの答えを見つける為、全世界 180 チーム、250 項目のデータを、生産性の高いチームと低いチームの特徴を 4 年かけて調査し 5 つの要件を突き止めました。結果、これまでは個人の能力の高さや働き方が生産性に重要とされてきましたが、圧倒的に重要とされたのは「心理的安全性」であったと 2016 年 NYT(ニューヨークタイムズ)誌に発表され大きな話題となりました。ちなみに「アリストテレス」のプロジェクト名は「全体は部分の総和に勝る」という名言からだそうです。
3. 5 つの要件は以下のとおりです。①心理的安全性「チームの中でミスをして、それを理由に非難されることはない」と思えるか。②相互信頼「チームメンバーは、一度引き受けた仕事は最後までやりきってくれる」と思えるか。③構造と明確さ「チームには、有効な意思決定プロセスがある」と思えるか。④仕事の意味「チームのためにしている仕事は、自分自身にとっても意義がある」と思えるか。⑤インパクト「チームの成果が組織の目標達成にどう貢献するかを理解している」か。

● 心理的安全性(Psychological safety)の定義と解説²⁾

日本医療安全学会/医療の質・安全学会.医療安全用語集.第1版²⁾より

1. 定義：率直に発言したり懸念や疑問やアイデアを話したりすることによる対人関係のリスクを、人々が安心して取れる環境のこと。
2. 解説：マサチューセッツ工科大学の Schein E と Bennis W が組織改革の不確実さと不安に対処出来るようになるには、心理的安全性が必要と説き、後にハーバード大学の Edmondson A が、心理的安全性はグループレベルの現象であることを提唱し、心理的安全性があればチームの学習行動が促され、パフォーマンスも向上することを明らかにした。心理的安全性が高い状態とは、(1) 無知だと思われる不安(Ignorant)、(2) 無能だと思われる不安(Incompetent)、(3) 邪魔をしていると思われる不安(Intrusive)、(4) ネガティブだと思われる不安(Negative)という不安がない状態とされる。

● 心理的安全性と医療安全

1. イミリー・C・エドモンドソン(Edmondson A)教授は心理的安全性を、「素直に意見を述べても、拒絶、攻撃、羞恥を感じることはなく、関係性が悪化することはない、という信念がチーム内で共有され実践されている」、また、「単に居心地が良い、という意味ではなく間違いを開示、指摘し合い、より適切な判断を学び共有できるチーム」としています。
2. 医療安全を向上させるに為にも心理的安全性が重要であることは理解できると思います。つまり、職員全員が他者からの批判などのリスクを感じないことで、自発的にそして主体的に改善点を指摘し適切な未然防止策を検討します。事故報告を躊躇無く提出できる、エラーを発覚させ有害事象に繋がらない仕組みを作る、といった基本的な安全行動を実践することに繋がります。³⁾⁵⁾

● 心理的安全性テスト⁴⁾

1. 心理的安全性を簡易的に測ってみませんか？左図は医療の質・安全学会誌、辰巳教授の論文からの引用です。「心理的安全性の度合いは、基本的に医師、看護師とその他の職種の間で高く、医師は医師であるというだけで心理的安全性が高く、潜在的な権威勾配の存在を示唆しているが、我々の施設でも同様であった」と述べられています。ちなみに医師 5 点、看護師 4.8 点、その他職種 4.3 点であったとのこと、皆さんの現場ではいかがですか？結果はともあれ参考までとして、全職員で心理的安全性が高く、安全な状態を維持するべく意識してまいりましょう。

職員の皆様へ：お読みになりましたら下記へサインをお願いします。院内ラウンド時に確認させていただきます。